

優先的に保険導入が適切であると評価された先進医療

告示 番号	先進医療技術名	技術の概要	先進医療等の 適用年月日
1 2	自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PH)(直腸粘膜脱又は内痔核に係るものに限る。)	リング型の高周波切除器を用いることにより、腺筋症組織のみを正常の子宮筋層と分離して切除(核出)する技術。	平成17年11月1日
2 5	強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍に係るものに限る。)	直線加速器(リニアック装置)による高エネルギー放射線を用い、最適化計算を利用して正常臓器と悪性腫瘍病変が複雑に隣接する場合でも悪性腫瘍のみに高い放射線量を照射できる技術。	平成18年5月1日
3 7	内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(泌尿生殖器腫瘍(腎腫瘍、前立腺癌又は副腎腫瘍)に係るものに限る。)	開放手術の利点(立体視、低コスト)と腹腔鏡下手術の利点(低侵襲性)を併せ持つ術式であり、小切開(ミニマム創)で、ガス不使用なので腹膜損傷も少なく、また小切開創から立体視が可能な技術。	平成18年8月1日
4 8	画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術(慢性副鼻腔炎、副鼻腔のう胞又は鼻副鼻腔良性腫瘍に係るものに限る。)	内視鏡を用いた副鼻腔手術において、手術前の画像診断で得られた情報と術野の位置を的確に反映させるコンピューターガイド(画像支援ナビゲーション)の使用により、術野の位置および危険部位の確認ができ、安全で適切に手術を行うことができる技術。	平成18年9月1日
5 9	顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術(顔面骨又は頭蓋骨の先天奇形に係るものに限る。)	顔面骨、頭蓋骨の広範な骨切り術を行い、先天的な奇形を矯正する技術。	昭和60年11月1日
6 12	培養細胞による先天性代謝異常診断(胎児又は新生児に係るものに限る。)	治療が遅れると重篤になる先天性代謝異常症を出生前もしくは新生児期に診断し、早期治療を行うための技術。	昭和61年12月1日
7 18	実物臓器立体モデルによる手術計画(頭頸部頭面領域の骨変形、欠損若しくは骨折又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を伴う疾患に係るものに限る。)	CT(コンピューター断層撮影)等の画像データから実物大立体モデルを作成し、手術方法の計画を立てるための技術。	平成5年11月1日
8 19	歯周組織再生誘導法(歯周疾患による根分岐部病変又は垂直性骨欠損に係るものに限る。)	生体親和性の優れた膜(メンブレン)を使用し歯周組織の再生を促す技術。	平成6年7月1日
9 20	接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定(少数歯欠損又は動揺歯に係るものに限る。)	接着性レジンセメントの強固な接着力により、ブリッジの維持および固定や動揺歯の連結固定を行う技術。	平成7年2月1日
10 28	焦点式高エネルギー超音波療法(前立腺肥大症に係るものに限る。)	経直腸的に挿入したプローブから超音波を放射し、腫大した前立腺肥大症を治療するための技術。	平成9年11月1日
11 29	レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法(齲蝕症又は歯周疾患による歯石沈着症に係るものに限る。)	齲蝕の除去について、従来の切削器具を使用せずに、レーザーを応用して振動や音ならびに痛みを少なくする技術。	平成9年11月1日
12 36	SDI法による抗がん剤感受性試験(がん性腹膜炎又はがん性胸膜炎に係るものに限る。)	進行がん罹患している患者に対して、抗腫瘍性殺細胞効果を確実に期待できる抗がん剤を、患者自身の腫瘍の特性に応じて選択することができる技術。	平成11年6月1日
13 37	栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	栄養障害型表皮水疱症の鑑別が困難な病型を遺伝子診断により確定する技術。	平成11年7月1日
14 38	家族性アミロイドーシスのDNA診断	発病初期における確定診断が困難である家族性アミロイドーシス(FAP)の診断を行う技術。	平成11年7月1日
15 41	抗がん剤感受性試験(進行胃がん、大腸がん、食道がん、頭頸部進行がん、進行乳がん、消化器がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸・体がん又は卵巣がん(胸水又は腹水例を含む。))に係るものに限る。)	患者のがん組織に対する抗がん剤感受性試験を行い、個々の患者に有効かつ適切な抗がん剤の選択を行う技術。	平成12年3月1日
16 43	不整脈疾患における遺伝子診断(先天性QT延長症候群に係るものに限る。)	先天性QT延長症候群患者の遺伝子診断を実施することにより、適正な治療法の選択が可能となる技術。	平成12年3月1日
17 45	画像支援ナビゲーション手術(頭頸部若しくは脊椎の腫瘍、血管病変又は脊椎病変に係るものに限る。)	術前画像による病変位置と術中の部位情報を精密に統合し、手術の進行に合わせて画面表示することにより、安全に手術を行うことができる技術。	平成12年10月1日
18 49	生体部分肺移植術(原発性肺高血圧症、特発性間質性肺炎、気管支拡張症、肺リンパ管筋腫症、閉塞性細気管支炎、間質性肺炎、のう胞性肺組織症又は肺のう胞症に係るものに限る。)	肺移植以外に治療法のない末期の肺疾患であって、脳死ドナーからの臓器提供が待てない患者に対して、健康なドナー2人から、それぞれ肺の一部を移植する技術。	平成15年2月1日
19 58	脊髄性筋萎縮症のDNA診断	最新の高度な遺伝子解析技術を用いて正確な診断を行う技術。	平成15年11月1日
20 76	抗がん剤感受性試験(CD-DST法)(消化器がん、乳がん、肺がん又はがん性胸・腹膜炎に係るものに限る。)	患者より採取した腫瘍組織から腫瘍細胞を単離しCD-DST(collagen gel droplet-embedded culture drug sensitivity test)法で処理することにより、臨床検体が微量であっても各抗がん剤の抗腫瘍効果を評価することが可能であり、治療に際し適切な抗がん剤を選択することができる技術。	平成16年11月1日
21 79	中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	末梢血液から特定遺伝子を取り出して診断を行う。これにより遺伝子変異の種類による重症度予測が可能となり、それに応じた療養指導、症状の進行の予防に役立てることができる技術。	平成16年12月1日
22 89	グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断(ラスムッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん又はオブソクロヌス・ミオクロヌス症候群に係るものに限る。)	発症原因と考えられるグルタミン受容体自己抗体の有無を検査し、疾患の診断を行う。これらの疾患では、侵襲の大きい治療が必要となるが、正確な診断により不適切な治療を避けることができる技術。	平成17年9月1日
23 94	超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施した場合に限る。)	微弱な超音波を1日1回20分間、骨折部に与えることで骨折治癒を促進する技術であり、新鮮骨折の骨癒合期間を短縮することが複数の臨床試験で報告されている。本治療法は非侵襲的で、副作用も少なく、従来の骨折治療に追加するだけの有用な技術。	平成18年11月1日
24 95	眼底三次元画像解析(黄斑円孔、黄斑前膜、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑症、網膜剥離又は緑内障に係るものに限る。)	これまでの眼底検査では行えなかった網膜断層面の観察や立体構造の数値的解析を行うことができる。現在、本解析には基本的に3種類の検査装置のいずれかで実行されている。いずれの方法も、装置にコンピューターが内蔵されており、取得データの数値的解析・ファイリング、画像劣化のない半永久的保存などが可能であるため、従来の眼底検査では得られない情報の入手と情報管理が行える。	平成19年1月1日